

第14回印旛沼流域環境・体験フェア 開催

10月29日(土)、30日(日)、「第14回印旛沼流域環境・体験フェア」が佐倉市の佐倉ふるさと広場向かい側の広場で開かれました。

印旛沼は農業用水、工業用水及び水道用水として印旛沼周辺や京葉地域の広い範囲で利用されていますが、印旛沼は水質汚濁など多くの課題をかかえています。

このフェアは、印旛沼の持つ魅力を発信し、沼を愛護する精神を育むとともに、流域住民・県民に対し印旛沼の水質浄化を啓発し、印旛沼流域の健全な水循環の再生のための取り組みを実践する契機とすることを目的として開かれています。



今年は、前日の夜中まで降った雨の影響で開催が危ぶまれましたが、無事に開催されました。期間中は雲が多く、肌寒い天気となりましたが、多くの方が来場されていました。

各ブースには流域市町・市民団体・関係団体のほか、学校(中学、大学)や研究機関などが出展し、また、イベント初日のステージにチーバくんをはじめとした千葉県内のゆるキャラ10体(人?)が大集合、2日目に地元高校生による生バンド演奏などが行われ、老若男女の方が楽しんでいました。各ブースでは、地元農産物の直売、屋形船体験、どじょうつかみ大会、環境活動関連の展示など数々のブースがあり、たくさんの方々が足を運んでくださいました。



当千葉用水総合管理所では、印旛沼開発の歴史、印旛沼の水管理、今年の印旛沼における濁水対応と8月の台風に伴う洪水排水対応、外来植物ナガエツルノゲイトウ処理対応などをパネル展示しました。建設当時の写真パネルを見ながら昔を思い出す方や洪水排水対応、ナガエツルノゲイトウの駆除に苦労していることに関心を持って説明を聞いていただけました。子供から年配と幅広い層の皆さんが多数来場され、中には大和田機場見学した小学生の子供が印旛沼に関心を持ち、子供に誘われて来場されたご家族連れもおり、印旛沼流域水循環健全化会議の取り組みが少なからず効果を生んでいることを実感しました。多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。